

すくすくみやぎっ子通信

令和3年秋号

発行：宮城県農政部
季節ごとに宮城の旬の食材をご紹介します！

第7号



みやぎの

かんきょうほぜんまい
「環境保全米」

令和2年11月から県内小・中学校向けの給食へ
「環境保全米ひとめぼれ」が提供されています*



*一部地域を除きます。また、市町村で環境保全米の供給量が不足する場合には、期間限定の提供となっています。

「環境保全米」ってどんなお米？

「環境保全米」とは、「農薬」や「化学肥料」の使う量をふつうの米づくりと比べて半分以下に減らし、手間をかけて作られたお米です。

○「環境保全米」を食べることは、環境を守ること

環境保全米は、農薬や化学肥料の使用量を減らし、環境への負荷を軽減することで、土や水をきれいにし、水田の豊かな生態系を守ります。環境保全米を食べて生産者を応援することは、皆さん自身が環境を守ることにつながるのです。



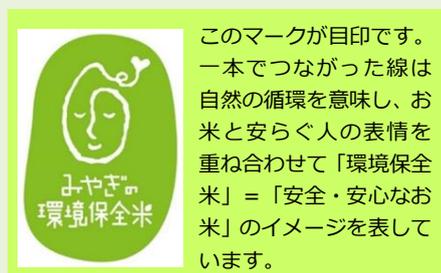
○「SDGs」世界的な目標達成に貢献

「SDGs」とは、人が将来も安心して暮らすことができる世界を目指すために、国連サミットで定められた国際社会共通の目標です。環境保全米の取組は、その17の目標の一つである「海の豊かさを守ろう、陸の豊かさも守ろう」等の達成に貢献するものです。



○「環境保全米」で健やかな成長をサポート

ふつうのお米づくりよりも、さらに手間をかけ、こだわって作られた「環境保全米」。毎日の給食を通して、子どもたちの健やかな成長を応援しています。



このマークが目印です。一本でつながった線は自然の循環を意味し、お米と安らぐ人の表情を重ね合わせて「環境保全米」=「安全・安心なお米」のイメージを表しています。

「環境保全米」の歴史

今から30年ほど前、有人ヘリコプターで農薬を空中散布することが当たり前だった時代の1991年に、仙台市内の浄水場の水道水から農薬成分が検出されました。この事故をきっかけに、地域の環境・生態系の問題、生産者の健康問題等が議論され、農薬や化学肥料を減らして環境にやさしい農業を進めようという「環境保全米」への取組が始まりました。



2007年には、JAグループ宮城が「環境保全米づくり全県運動」を展開。同年10月には、その趣旨に賛同した消費者や生産者のほか、宮城県や報道機関、プロスポーツ団体等により「みやぎの環境保全米県民会議」が設立され、環境保全米の普及啓発等の取組が行われています。

今では、環境保全米運動は宮城県全体に広がり、各地で環境保全米が作られるようになりました。

豊かな生態系をはぐくむ「環境保全米」

「環境保全米」づくりを通じて環境保全が図られていることを消費者や子どもたちに知ってもらうため、田んぼにくらす生き物の調査が行われています。

調査の結果、水や土がきれいになったことで、トンボやホタル、メダカなどが田んぼに戻ってきていることが分かりました。



【参考】田んぼの生き物調査結果（調査対象JA：県内10JA）



※田んぼで見つけた生き物のうち、その量を〈いない0点、少しいる1点、沢山いる2点〉で集計し、有効回答数で割った数字を記載（令和2年3月現在 資料：JA宮城中央会 環境保全米づくり推進本部作成）

問い合わせ先：宮城県 農政部 みやぎ米推進課 環境対策保全班

電子メール：miyamai-kt@pref.miyagi.lg.jp

電話：022（211）2845

ホームページ：<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/engei/gakkokyusyoku.html>

（宮城県 農政部 園芸推進課）